作用機作

理研ショートキープ液剤は植物の茎葉部から吸収され、植物体内の分岐鎖アミノ酸（バリン、ロイシン、イソロイシン）の生合成に関与するアセト乳酸合成酵素（ALS）を阻害します。

抑草スペクトラム

イネ科雑草に対する効果

社内試験および委託試験結果より

草種		薬量㎖/㎡ 0.5	薬量㎖/㎡ 1.0	散布時期（目安） 雑草の状態	散布時期（目安） 草丈	症状
イネ科	メヒシバ	△	○	生育期	30cm	変色・生育抑制
	エノコログサ	○	●	生育期	30cm	変色・生育抑制
	オヒシバ	×	○	生育期	20cm	要高薬量
	スズメノカタビラ	●	●	生育期	15cm	枯殺
	キシュウスズメノヒエ	◎	◎	生育期	30cm	変色・生育抑制
	ススキ	◎	◎	出穂直前	30cm	変色・生育抑制
	オギ	○	○	刈取後	30cm	変色・生育抑制
	チガヤ刈取後再生	○	◎	刈取後	10cm	変色・生育抑制
	チガヤ生育個体	×	△	生育期	20cm	変色・生育抑制
	メリケンカルカヤ	○	●	生育期	30cm	枯殺
	イタリアンライグラス（ホソムギ）	△	△	生育期	15cm	要高薬量
	カラスムギ	×	×	生育期	10～20cm	不効
	カモジグサ	×	×	生育期	10～20cm	不効
	トールフェスク	○	○	生育期	10cm	変色・生育抑制
	ウィービングラブグラス	×	×	生育期	40cm	不効
	オーチャードグラス	●	●	生育期	10cm	枯殺
	ノシバ	○	○	生育期	2cm	変色・生育抑制
	ギョウギシバ	○	○	刈取後	15cm	変色・生育抑制
	アズマネザサ	△	△	生育期	10～20cm	変色・生育抑制

表示方法　●：枯殺～91％を抑制、◎：90～70％を抑制、○：69～50％を抑制、△：49～30％を抑制、×：29％以下を抑制

広葉雑草に対する効果

社内試験および委託試験結果より

草種		薬量㎖/㎡ 0.5	薬量㎖/㎡ 1.0	散布時期（目安） 雑草の状態	散布時期（目安） 草丈	症状
	アカザ科	シロザ	●	●	生育期	10cm	枯殺
	アブラナ科	タネツケバナ	×	×	生育期	20cm	不効
	イラクサ科	カラムシ	●	●	生育期		枯殺
	ウリ科	アレチウリ	●	●	生育期	つる 10m	枯殺
	オオバコ科	オオバコ	○	○	生育期	10cm	変色・生育抑制
	カヤツリグサ科	コゴメガヤツリ	●	●	生育期	10cm	枯殺
		ハマスゲ	○	○	生育期	10～20cm	変色・生育抑制
	キク科	ヒメムカシヨモギ	○	○	生育期	ロゼット葉	変色・生育抑制
		オオアレチノギク	○	○	生育期	10～20cm	変色・生育抑制
		ハルジオン	◎	◎	生育期	10～20cm	変色・生育抑制
		ヨメナ	◎	◎	生育期	10～20cm	変色・生育抑制
		オナモミ	●	●	生育期	10cm	枯殺
		コセンダングサ	○	○	生育期	15cm	変色・生育抑制
		ブタクサ	●	●	生育期	15cm	枯殺
		ハキダメギク	◎	◎	生育期	20cm	変色・生育抑制
		カミツレ	●	●	生育期	10cm	枯殺
		セイタカアワダチソウ	●	●	生育期	20cm	枯殺
		セイタカアワダチソウ	◎	◎	生育期	50cm	変色・生育抑制
		ヨモギ	◎	◎	生育期	25cm	変色・生育抑制
		キクイモ	●	●	生育期		枯殺
		オオホシケイギク	●	●	生育期	20cm	枯殺
		メリケントキンソウ	○	●	発芽終期		枯殺
	タデ科	オオイタドリ	◎	●	生育期	25cm	地上部枯殺後回復
		エゾノギシギシ	●	●	生育期	ロゼット葉	枯殺
		イタドリ	×	○	生育期		変色・生育抑制
		オオイタドリ	○	○	生育期	1 m	変色・生育抑制
	ツユクサ科	ツユクサ	◎	●	生育期	20cm	変色・生育抑制
	トクサ科	スギナ	◎	◎	生育期	20cm	変色・生育抑制
	ナス科	イヌホオズキ	●	●	生育期	10cm	枯殺
		シロバナチョウセンアサガオ	◎	◎	生育期	15cm	変色・生育抑制
	ナデシコ科	オランダミミナグサ	●	●	生育期	20cm	枯殺
		ハコベ	●	●	生育期	10cm	枯殺
	ヒユ科	アオビユ	●	●	生育期	10cm	枯殺
	ヒルガオ科	アメリカネナシカズラ	×	×	生育期	10cm	不効
	マメ科	クサネム	●	●	生育期	50cm	枯殺
		ニセアカシア	○	●	生育期	＜150cm	枯殺
		クズ	●	●	生育期	つる 8m	枯殺
		カラスノエンドウ	●	●	生育期	10cm	枯殺
		ヤハズソウ	●	●	生育期	10cm	枯殺
		シロツメクサ	◎	●	生育期	10cm	変色・生育抑制

表示方法　●：枯殺～91％を抑制、◎：90～70％を抑制、○：69～50％を抑制、△：49～30％を抑制、×：29％以下を抑制
（注）低温期（11月～3月）の散布では効果が安定しないことがあります。植物の生育が盛んな時期（生育期）に散布してください。

適用雑草と使用方法

2023年8月現在

作物名	適用場所	適用雑草名	使用目的	使用時期	使用量 薬量	使用量 希釈水量	使用方法	本剤およびビスピリバックナトリウム塩を含む農薬の総使用回数
樹木等	公園、庭園地とう、駐車場道路、運動場宅地、のり面鉄道等	一年生及び多年生雑草	草丈抑制による刈り取り軽減	雑草生育期又は刈取後（草丈30～50cm）	0.5～1.0㎖/㎡	適常散布 100～200㎖/㎡ 少量散布 25～50㎖/㎡	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	3回以内
日本芝	―	一年生及び多年生広葉雑草	―	春夏期芝生育期（雑草生育期）	0.75～1.0㎖/㎡	100～200㎖/㎡	雑草茎葉散布	
日本芝（のしば）		メリケンカルカヤ		春夏期芝生育期（メリケンカルカヤ生育期）				
西洋芝（ベントグラス、ブルーグラス）		スズメノカタビラ	スズメノカタビラの出穂抑制	芝生育期（スズメノカタビラ出穂前まで）	0.1～0.2㎖/㎡			

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 薬量	使用量 希釈水量	使用方法	本剤およびビスピリバックナトリウム塩を含む農薬の総使用回数
樹木等	公園、庭園地とう、駐車場道路、運動場宅地、のり面鉄道等	ニセアカシア	雑草生育期又は刈り取り後再生期	1.0㎖/㎡	100～200㎖/㎡	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	3回以内
		アレチウリ	雑草生育期	0.5～1.0㎖/㎡			
		クズ	雑草生育初期（5～6月）	つる径 2.0ｃｍ以下 ･･･････ 0.5 2.1～3.0cm ･･･････ 1.0 3.1～4.0cm ･･･････ 1.5 4.1～5.0cm ･･･････ 2.0 5.1cm以上 ･･･適宜増量（使用量（㎖/株））	原液	植栽地を除く樹木等の周辺地につる注入処理	
林木	林地						

⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 展着剤加用の必要はありません。
- 西洋芝（ベントグラス、ブルーグラス）のスズメノカタビラ出穂抑制に使用する場合は次の事項に注意してください。
  ①スズメノカタビラの出穂前に有効なので、時期を失しないように散布してください。
  ②ターフ形成後の芝生に使用してください（薬害）。
  ③夏期高温時や強い陽圧を受けるなど、芝生の生育が停滞する条件では使用をさけてください（薬害）。
  ④連用する場合、散布間隔を２週間以上あけて使用してください。芝生が黄変してる場合には使用をさけてください。
- 西洋芝（ベントグラス、ブルーグラス）および日本芝に使用する場合、散布後、黄変や生育抑制が発生することがありますが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていません。
- 生育期雑草の茎葉全体に薬液が均一にかかるようにしてください。また、雑草が大きくなりすぎると効果が低減するので時期を失しないように散布してください。
- 日本芝（のしば）のメリケンカルカヤに連用する場合、散布間隔を約40日あけて使用してください。
- 公園、堤と等で反復散布する場合、２回目の散布は1回目散布40 ～ 50日後に実施してください。
- 散布後６時間以内の降雨は効果を減ずることがあります。
- 低温下では効果の発現が遅れることがあります。
- 雑草の種類によって効果が変動する場合があります。
- クズのつる注入散布をする場合には次のことに注意してください。
  ①株元から50cm以内の外皮を刃物等で木質部が見える位に剥皮して、薬液が十分付着するように演下してください。
  ②株頭が大きく、複数のつるが出ているものは、すべてのつるに薬液を散布してください。
- 田畑、果樹園等へ流入、飛散しないよう注意してください。作物及び有用植栽木の茎葉部へ薬液が飛散した場合、葉の黄化、落葉、枯死等の薬害が発生します。
- 使用した器具、ホース等は水洗い、水通しをしてください。
- 散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は河川等に流さず、容器等は環境に影響を与えないよう適切に散布してください。
- 水源池等には本剤が飛散・流入しないように注意してください。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 桑葉には かからないように散布してください（蚕毒）。

⚠ 安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 使用の際は保護眼鏡、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 公園、堤と等で使用する場合は、散布区域に蜂蜜・中立てし名立て、散布中および散布後（少なくとも散布当日）に関係者以外は立ち入らないようにし、小児、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 使用時の薬剤は必ず安全な場所に保管してください。
- 使残をし、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼な場所に保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。
●ラベルの記載以外には使用しないでください。
●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

製造 販売元　緑をつくり、育て、守る。
株式会社 理研グリーン
〒110-8520 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 8F
TEL.03(6802)8571　FAX.03(6802)8577　https://www.rikengreen.co.jp

札幌駐在（仙台支店にて代行受付）
仙台支店 TEL.022(222)9599 FAX.022(267)5505
東京支店 TEL.03(6802)8943 FAX.03(6802)8953
静岡支店 TEL.054(283)0691 FAX.054(291)4261
名古屋支店 TEL.052(218)3060 FAX.052(218)3061
大阪支店 TEL.06(6871)1691 FAX.06(6871)1811
福岡駐在（大阪支店にて代行受付）

抑草剤

農林水産省登録 第19644号

NETIS 登録番号 KT-140001-VE

抑草剤

理研 ショートキープ®液剤

イネ科主体の美しい植生へと導く、
雑草管理のスタンダード!!

特長

●道路・鉄道・水路の法面等での草刈り回数や作業労力を軽減できます。
雑草の生育を抑制するため、危険をともなう草刈り作業の回数軽減、刈り草の除去等の経費および労力の軽減ができます。

●路肩等の視地化を防ぐため、崩壊防止や景観の維持ができます。
雑草をすべて枯殺する非選択制除草剤とは異なり、草丈を抑える作用を示すため、裸地化による土壌流亡を防ぎます。

●広範囲の雑草に効果が優れ、難防除雑草にも有効です。
一年生雑草から多年生雑草まで広範囲の雑草に対して効果があります。有効成分が主に茎葉部から吸収されますので、雑草生育期（草丈30～50cm）の使用が特に有効です。

●つる性雑草などの生育抑制にも効果があります。
防除の難しいクズ、アレチウリなどのつる性雑草に対し、枯殺または強い生育抑制作用を示します。

●スズメノカタビラの出穂抑制に効果があります。
ゴルフ場の寒地型芝草（ベントグラスやブルーグラス）内に侵入し、景観を損ね、プレーの邪魔になるスズメノカタビラの出穂を効果的に抑制します。

●環境に対する安全性
人畜・環境への影響がきわめて低く、有効成分の投下薬量も少ない薬剤です。

規格：1ℓ×5本、5ℓ×2本

®（株）理研グリーン 登録商標

製造 販売元　緑をつくり、育て、守る。
株式会社 理研グリーン

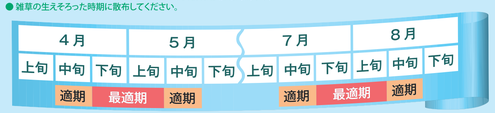
抑草剤としての上手な使い方

理研ショートキープ液剤は雑草の生育期（草丈30～50cm）に散布することにより高い効果を示しますが、より安定した効果と安全性を確保するために、使用方法及び使用上の注意を守るとともに、次の点に注意してください。

散布適期

■雑草が生えそろっていない場合や、雑草が大きくなりずぎた場合（草丈50cm以上）には十分な効果は期待できませんので、散布時期に注意してください。
■雑草は気象条件や地域により発生時期や生育スピードが異なる場合がありますので、草丈が30～50cmになる頃を目安として散布してください。
■残効が無くなった場合、雑草再伸長初期に2回目の散布をしてください。

● 地域により異なりますが、草丈30～50cmになったときが散布時期です。
● 雑草の生えそろった時期に散布してください。



均一に散布

茎葉部より吸収されて効果を発揮します。かけ残しや散布ムラのないよう、均一に散布すると一層効果的です。

散布方法

1㎡あたり0.7～1㎖の薬量を、1㎡あたり100㎖の水量で、噴霧器を用いて散布してください。基本的に、散布には通常散布用のノズルを使用してください。少量散布専用ノズルを使用する場合は、1㎡あたり30㎖の水量で散布してください。

有効成分と安全性

■有効成分・物理化学的性状
一 般 名：ビスピリバックナトリウム塩　含 有 量：3.0 %
性　　状：淡黄色澄明水溶性液体　蒸 気 圧：5.04×10⁻⁶ Pa（25℃）　水溶解度：73.3 g/ℓ（25℃）

■安全性（製剤）

人畜毒性：普通物（＊）		水産動植物に対する影響		
急性経口（LD_{50}） ラット	雌雄 ＞2000mg/kg	コイ(LC_{50} (96hr)	58（mg/ℓ）	
急性経皮（LD_{50}） ラット	雌雄 ＞2000mg/kg	オオミジンコEC_{50} (48hr)	96（mg/ℓ）	
皮膚刺激性	無刺激性	藻類	E_bC_{50} (0-72hr)	26（mg/ℓ）
眼刺激性	軽度刺激性		E_rC_{50} (0-72hr)	121（mg/ℓ）
皮膚感作性	陰性			

（＊）毒劇物に該当しないものを指していう通称）

■有用生物に対する安全性（原体）

鳥類	マガモ	LD_{50}＞5620mg/kg
	コリンウズラ	LD_{50}＞5620mg/kg
ミツバチ		混餌LD_{50}＞200μg a.i./頭 接触LC_{50}＞70,000ppm
カイコ		1000ppm死亡例無
カイコ（製剤）		500ppm（a.i換算）を桑に散布した際の安全日数は１日
ミミズ		LC_{50}（14日）＞1000mg/kg

有用植物に対する影響

理研ショートキープ液剤はドリフトにより、周辺作物に対して薬害などの影響を及ぼす可能性があります。
散布の際には、飛散防止ノズル（少量散布ノズル）を使用するなど特にドリフトには注意してください。

■理研ショートキープ液剤に対する有用植物の感受性（実用量薬500 ～ 1000㎖/10aのすべての付着した場合）

感受性	区分	作物名	薬害症状
高	果樹	カンキツ、リンゴ、ブドウ、ナシ、モモ	黄化・落葉→枯死
	野菜	イチゴ、トウモロコシ、ダイズ、アスキ、ビート、コンジン、トマト、ジュンギク、ダイコン、ハクサイ、キャベツ	赤化→枯死
	樹木	ナワシログルミ	黄化→落葉
		クチナシ、イヌツゲ、モッコク	黄化→枯死
		アベリア、レンギョウ、ハコウツギ、アリサイ、シャリンバイ、キョウチクトウ、トウネズミモチ、モチノキ	枯死
		ヤマモモ	葉脈赤化→枯死
中	果樹	チャ、オウトウ	変色→生育停止→回復
	野菜	サツマイモ、キュウリ、ネギ	変色→回復
	樹木	オオムラサキ	黄化・赤化
低	果樹	ウメ	変色→生育停止→回復
	作物	イネ、コムギ、デントコーン	変色→回復
	樹木	コキヤナギ、ネズミモチ	黄化
無	樹木	ニシキギ、マヂバシイ、クロガネモチ、サザンカ、ヒイラギ、ヒイラギモクセイ	

★製剤500㎖/10aのうち10％（製剤50㎖/10a）がドリフトした場合
①感受性の高いグループは、散布後90日たってもかなりの薬害が残り、被害が大きいと考えられます。これらの植物が近接して移植・栽培されている場合には使用を避けてください。
②感受性が中程度のグループは、散布後50～60日後より薬害が回復し始める傾向がありますが、収量に影響が出る可能性が大きいので特にドリフトには十分注意してください。
③感受性が比較的低いグループは、ドリフトにより葉色の変化が認められますが散布50～60日後には目立たなくなります。

管理労力の軽減

日本植物調節研究協会　研究所

●鉄道法面での植生管理における機械除草との比較

比較項目/管理方法	ショートキープ液剤	機械除草
作業性 (面積約3,500㎡あたり)	作業員:3人 工程:2～3時間	作業員:6人 工程:6日間
抑制効果 (群落草丈、11月調査)	1.0m以下	2.5～2.7m
優占する草種	草丈の低い 牧草類に遷移	セイバンモロコシ、ススキ セイタカアワダチソウ等

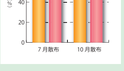
試験期間：2009年6月～12月
試験場所：茨城県 鉄道法面
試験規模：3,500㎡
管理作業：刈込2009年6月11日,12日 ⇒1回目散布2009年7月7日⇒2回目散布9月15日
使用薬剤：ショートキープ液剤 0.7及び1.0ml/㎡(水量：100ml/㎡)
散布方法：車載式動力噴霧器、5頭口ラウンドノズルで25または100
試験結果：広葉雑草の枯殺、イネ科雑草の草丈伸長抑制が認められ、周年刈り取りが必要な状態にあった。

散布区の状況（2009年10月13日）

クズおよびニセアカシアに対する効果

日本植物調節研究協会　委託試験結果

試験場所：休耕地
試験規模：10㎡(2反復)
散布日：1997年7月23日
水量：100ml/㎡
調査日：1997年9月22日(散布61日後)
試験結果：0.7及び1.0ml/㎡散布により90%以上の高い防除効果が認められた。



試験場所：鉄道の小figure
試験規模：54㎡(7月散布)27㎡(10月散布)
散布日：2007年7月24日
2006年10月23日(別試験区)
調査日：2007年11月7日(7月散布106日後)
2007年5月28日(10月散布217日後)
水量：100ml/㎡
散布時の樹高：平均180cm(7月散布)
平均210cm(10月散布)
試験結果：0.7及び1.0ml/㎡散布により80%以上の防除効果が認められ、10月散布の1.0ml/㎡では枯死に到った。

ショートキープ液剤 0.7ml/㎡
ショートキープ液剤 1.0ml/㎡

クズに対する効果

散布1回目　0.75ml/㎡　2006年10月12日
散布2、3回目　1.0ml/㎡　2007年5月29日、10月23日
散布4回目　0.75ml/㎡　2008年5月20日

散布水量150ml/㎡

ニセアカシアに対する効果

散布1回目　1.0ml/㎡　2007年7月24日
散布2回目　1.0ml/㎡　2008年6月12日

散布水量200ml/㎡

アレチウリに対する効果

特定外来生物アレチウリとは

- 生育速度が非常に速く、長さ数～十数mに成長します。
- 生育する際に周囲の栄養を吸い上げ、他の植物や樹木を覆いつくし枯死させてしまうことから2006年2月から駆除すべき「特定外来生物」に指定されました。
- 種子は服を真っ ほどの鋭いトゲを持ち、怪我の原因にもなり危険です。
- 一度蔓延すると防除が非常に困難になります。

アレチウリ（左）とその種子（右）

アレチウリの発生消長と散布適期

▶結実前に理研ショートキープ液剤を散布し枯死させることで、その年の休眠種子の数を減少させ、翌年の発生量を抑えることができます。
▶発芽可能期間が長いため、複数回の連続散布を推奨します。

供試薬量：1.0ml/㎡
水量：100ml/㎡
散布日：2022年7月30日
対象雑草：アレチウリ
(生育期、つる長10m)
試験規模：3×3㎡以上/区
試験場所：緑地環境技術研究所

散布後3日よりアレチウリに黄化症状がみられ、その後葉枯れ、枯死に至った
除草効果は極めて高かった

散布前
(7月25日)
散布33日後
(9月1日)

メリケントキンソウに対する効果

メリケントキンソウとは

- キク科イガトキンソウ属南米原産の一年生雑草です
- 畦畔や芝地等に生育しますが、主に公園やグラウンド等で発生が多い傾向にあります。
- 春、4～6mm程度の鋭いトゲを有した種子（瘦果）を形成し、靴底やタイヤなどに種子が刺さって運ばれることで生育域を拡大します。

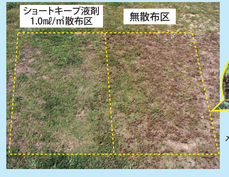
メリケントキンソウ（左）とその瘦果（右）

メリケントキンソウの発生消長と散布適期

▶後発や散布時期の気温を考慮すると、発芽終期にあたる3～4月に理研ショートキープ液剤（薬量0.8ml/㎡以上）を散布することが最も有効と考えられます。

試験場所：静岡県公園内芝生地
水量：200ml/㎡
散布日：2018年3月26日
調査日：2018年6月6日(散布72日後)
試験規模：2㎡×2反復

無散布区の茶色い部分はメリケントキンソウの種子であり、理研ショートキープ液剤を散布した箇所は、メリケントキンソウが種子をつける前に枯死した。



メリケントキンソウの種子

使用場面別効果

鉄道用地での効果

散布：1996年5月3日
1996年6月10日

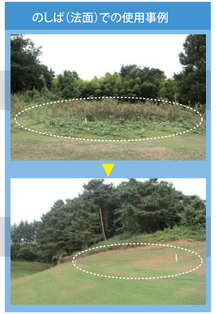
日本植物調節研究協会　研究所

高速道路のり面での効果

散布：1996年5月10日

社内試験

日本芝での効果



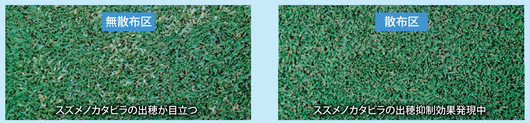
供試薬量：0.8ml/㎡
散布日：2011年10月20日
調査日：2012年8月12日(散布297日後)
対象雑草：クズ、セイタカアワダチソウ
試験結果：ラフ刈りと一緒に刈込を実施
翌年の多年生雑草等の発生が減少

供試薬量：0.75ml/㎡　調査日：2010年7月22日(散布24日後)　水量：100ml/㎡
散布日：2010年6月28日　試験場所：コルフ場内芝地(コウライシバ)
※効果を安定させるため、本草種が未だする前の散布を推奨

供試薬量：0.75ml/㎡
散布日：2015年7月1日
調査日：2015年7月29日(散布28日後)
(社内試験)

スズメノカタビラに対する出穂抑制効果（ゴルフ場、寒地芝草用）

理研ショートキープ液剤散布16日後



散布時期は桜の開花時期、花木の開花時期等を目安にして決めてください。
スズメノカタビラの出穂後では効果が劣る場合があります。出穂前から散布を開始してください。

スズメノカタビラの出穂抑制の事例

(1)フェアウェイでの使用方法

(2)グリーンでの使用方法　●一般的地域(関東以北)の散布パターン

本例は立地条件や芝草の生育状況により効果・薬害が異なりますので、ご使用の前に必ず試験機関もしくは弊社にご相談ください。

■使用上の注意事項

- 初めて使用する場合には、まず小面積での試験にとどめ、薬剤の特徴を確認してください。
- 均一散布できる散布器具をご使用ください。また、重複散布を避けるためカラーランド等の着色剤を加用してください。
- ターフ形成前の芝には薬害を生じるおそれがあるので、ターフ形成後の芝生に使用してください。
- 低温期(秋期・早春)や夏期高温時、ベントグラスがストレス状態(高温、乾燥、根上り、強い踏圧等)にあるときなど、芝生の生育が停滞する条件では薬害が生じる恐れがあるので使用をさけてください。
- 本剤を連続して使用する場合は、散布間隔を2週間以上あけて使用し、芝生が黄変している場合には使用をさけてください。
- 薬剤散布直後の灌水、薬剤散布後の更新作業は薬害を生じる恐れがあるので使用をさけてください。
- 本剤は散布後に芝に黄変や芝の生育を抑制することがありますが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていません。